

- <海外セミナーレポート①> ScholarOne Summit & Platform Strategies 2025 参加報告
- <海外セミナーレポート②> The International Society of Managing & Technical Editors (ISMTE) 参加報告
- <杏林舎サービス紹介> ジャーナル・コンサルティングサービス Seekl

SCHOLARONE  
MANUSCRIPTS

Silverchair 主催

## PLATFORM STRATEGIES 2025 参加報告

2025年9月24～26日、米国ワシントンD.C.にて、ScholarOne Manuscriptsの提供元であるSilverchair (SC社) が主催する「Platform Strategies 2025」が開催され、杏林舎からもスタッフが参加しました。

今回のフォーラムでは大きく三つの分野が取り上げられました。第一に、SC社が全力で推進している学術出版におけるAIプログラムの開発。第二に、同社のフラッグシップ製品であるオンライン出版プラットフォーム「Silverchair Platform」。そして第三に、世界中で利用されている「ScholarOne Manuscripts」です。



### 進むAI機能開発

今回は色々なテーマに関する講演やディスカッションがあったのですが、中でもメインのトピックとなったのはAIの開発と導入です。SC社はAIに対して大規模な投資を行い、学術出版の現場における実装を加速させています。現状ではメール作成や文章校正といった限定的な利用が中心ですが、今後は投稿論文の体裁チェック、ジャーナルのAim & Scopeとの適合度評価、査読者の自動推薦、文献の妥当性チェックなど、より高度な機能の導入が見込まれています。研究者からは、翻訳機能の進化による非英語圏研究者への利便性向上や、AIによる最適な投稿先選択への期待も語られました。



### AIはまだ発展途上

登壇者はSC社の社員にとどまらず、研究者、編集事務局員、ジャーナル編集長、制作会社、出版社など幅広いステークホルダーが参加し、それぞれの立場からAIの利用方法やメリット・デメリット、今後の開発への期待を共有しました。AI開発者からは、これまでの技術的進展や現状の課題、そして将来の展望についても紹介がありました。AIはまだ発展途上にあり、今後は多くの企業が参入することで競争が激化し、市場がさらに活性化していくと予測されています。生活や研究のあらゆる場面にAIが組み込まれる未来像が描かれ、学術出版業界においてもその影響は計り知れません。

### ScholarOne Manuscripts向けAI機能開発

ScholarOne Manuscriptsについては、従来の独自開発中心の方針から転換し、外部パートナーとの共同開発を積極的に推進していく姿勢が示されました。その一環としてAI Lab (研究室) やAI Playground (開発環境) が設置され、業界全体での機能共創が進められています。これにより、著者、査読者、編集者、出版社といったユーザーのニーズに即した機能を迅速に開発・検証できる体制が整えられつつあります。



さらに、複数のジャーナルの協力を得て、編集者向けのEditorial Assistantのパイロット運用も開始されました。ScholarOne Manuscriptsの主要ユーザーである20誌ほどの協力を得て、編集事務局や編集者にとってAIがどのように役立つのか、またどのような機能が求められているのかを調査しながら開発が進められています。このサービスは2026年中のリリースが予定されており、ScholarOne Manuscriptsのリソースを開放してAPI機能を拡充する方針も併せて発表されました。

### 運用現場に寄り添い、進化し続けるScholarOne Manuscripts

今回のフォーラムを通じて印象的だったのは、SC社が単にAI開発を推進しているだけでなく、ScholarOne Manuscriptsの25年にわたる歴史を踏まえ、将来的な課題解決に向けてこれまで以上に積極的に取り組んでいる姿勢でした。ユーザーの声を重視し、実際の運用現場に寄り添った機能開発を進めている点は、今後の学術出版における大きな強みとなると感じられました。



閉会にあたり、ScholarOne Manuscriptsプロダクト・マネージャーのJosh Dahl氏は「我々は今後、お客様の声に耳を傾け、あらゆるニーズに対応し、お客様にとってより一層最適な製品となるよう進化し続けます」と述べました。この言葉は、SC社の姿勢を象徴すると同時に、私たち杏林舎にとっても大きな示唆となりました。

### 最新情報を迅速にお届け

今回のフォーラム参加により、SC社は社内外のあらゆるリソースを投入してScholarOne Manuscriptsユーザーの利便性向上を図っている事を見る事が出来ました。また、同社はこれまで以上のスピードであらゆる技術開発に取り組んでいる様子も分かりました。杏林舎はこれからもSC社との連携をさらに深め、同社の開発スピードに遅れることなくScholarOne Manuscriptsに関する最新情報を日本のユーザーの皆様いち早くお届けしてまいります。



## 開催地モントリオール

モントリオールはフランス語圏ケベック州の州都です。フランス語が全く理解できない筆者にとっては不安でしたが、実際に行ってみると街中では英語とフランス語が飛び交い、街の人たちは英語しかできない方々にも丁寧に対応していました。また、街並みは古いヨーロッパ調の建物と近代的な建物が混在しており、街を歩くだけで風景を楽しむことが出来ました。

さて今年の会議では、AIの活用と規制をめぐる議論が中心的な話題となり、学術出版業界がどのようにAIと向き合うべきかが多角的に検討されました。特に注目を集めたのが、生成AIの利用に関する国際的な統一ガイドライン CANGARU の取り組みです。

## CANGARUとは

現在、COPE (Committee on Publication Ethics) や ICMJE (International Committee of Medical Journal Editors) は、①生成AIを著者として認めない、②研究に利用した場合は開示を求める、③最終的な責任は著者にある、という基本的な指針を示しています。しかし、詳細かつ統一的な国際基準は存在していませんでした。こうした状況を踏まえ、南カリフォルニア大学の研究者が紹介したのが CANGARU (ChatGPT, Generative Artificial Intelligence and Natural Large Language Models for Accountable Reporting and Use Guidelines) です。

## CANGARUの内容

CANGARUは、世界195カ国の編集委員長2万8千人以上、研究者100万人を対象に意見を募り、コアメンバーが策定した指針を評価・議論することで、包括的かつ柔軟なガイドラインを構築することを目指しています。提案されているガイドラインには、①利用が許容される範囲、②利用の開示方法、③論文執筆におけるチェックリストが含まれています。これにより、

## Editors Without Borders: Breaking Silos in a Technological World MONTREAL — CANADA —



International Society of Managing and Technical Editors

August 5-8, 2025

ISMTE 2025 Annual Conference



## ISMTE モントリオール 参加報告

学術出版におけるAI利用ガイドライン「CANGARU」の動向と国際的議論

2025年8月5日から8日まで、カナダ・モントリオールの Hotel Bonaventure Montréal にて開催された ISMTE (International Society of Managing and Technical Editors) 2025 年次大会に今年も Seekl (杏林舎が運営するジャーナルコンサルティング) からスタッフが参加しました。本大会のテーマは「Editors Without Borders: Breaking Silos in a Technological World (国境なき編集者：技術革新の時代における分断の打破)」であり、世界各国から学術出版、科学出版、専門出版に携わる編集者・研究者が集まりました。



AI利用の「やってよいこと／やってはいけないこと」が明確化され、研究者が批判的思考を維持しつつ、AIへの過度な依存を避けることが可能となります。

学術出版業界におけるAIの利用規定、またAIを活用したサービスなど、常に最新の情報を皆様に提供出来る様に取り組んでまいります。

登壇者は、CANGARUがまだ策定途上にあることを強調し、今後も世界の学術コミュニティによる継続的な協力と改善が不可欠であると述べました。CANGARUは、研究の信頼性と透明性を守りながら、AIの適切な活用を推進するための国際的な基盤づくりを進めており、本ガイドラインの進展は、学術出版におけるAI利用の方向性を大きく左右するものとなるでしょう。今後のアップデートについては、随時改めて共有いたします。

## 今年の基調講演もやはりAI関連

今回の ISMTE では、基調講演として「Artificial Intelligence in Scholarly Publishing: Policies, Pitfalls, and Possibilities」が行われました。登壇者は、AIが学術出版のビジネスモデル、研究の透明性、査読プロセスに与える影響について多角的に論じ、特に査読者の負担増やAIによる論文作成支援のリスクと可能性を強調していました。さらに、ポスト出版時代におけるソーシャルメディアやビジュアルアブストラクトなど新しい研究発信手法とAIの関わりについても議論が交わされました。

学術出版におけるAIの活用は未だ始まったばかりであるが故に、全体としてその規制内容についてはグレーな点が多い、と日々感じていた中で、今回取り上げたCANGARUの様な活動はその利用方法を明確化するマイルストーンになりそうです。この様なガイドラインがEquator Networkに追加される事により、誰もが

しっかりとAIの活用方法を把握しコントロールする事が出来る様になると同時に、発行された折には、我々もしっかりと内容を理解し共有する必要がある、と感じました。CANGARUについてはアップデートがあり次第、皆様にお知らせしてまいります。また今後も国際カンファレンス等に積極的に参加し、な

## 編集後記

今号では、2つの海外セミナーの参加報告をお届けしました。

1つ目は、ScholarOne Manuscripts提供元である Silverchair主催の「Platform Strategies 2025」。まだ手探りしながらですが ScholarOne Manuscriptsのさらなる進化のため、AI機能開発への積極的な取り組みが伺えました。

また2つ目の「ISMTE 2025 年次大会」では、学術出版において生成AIを利用するための国際的なガイドライン (CANGARU) の策定状況について見識を深めることができました。

前号に引き続きAIがメインの報告となりました。AIについては、日々新しいニュースが飛び込んできており、そのスピードもますます加速しています。今後もこれらの動向を注視しながら、皆様に有益な情報をお届けしてまいりたいと思います。

## S1M NEWS

2025年12月22日発行 第31号

発行

株式会社 杏林舎  
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10  
Tel.03-3910-4311 Fax.03-3949-0230  
https://www.kyorin.co.jp/

編集・制作・デザイン  
E-mail

株式会社 杏林舎  
s1-support@kyorin.co.jp

## ジャーナル・コンサルティング サービス Seekl

Seekl  
ジャーナルコンサルティング

Seekl  
では

1. ジャーナルをより広く知ってもらう**広報活動**
2. 投稿意欲を刺激する**ブランド価値構築**
3. 著者の**投稿体験の最適化**

この3つを軸にコンサルティングプランを作成しています

ジャーナル・インパクトファクター (JIF) をはじめとする引用メトリクスを向上させるには、ジャーナルの「引用される力」を育てる必要があり、投稿受付から査読、公開に至るすべての編集・査読プロセス上で細やかな調整・対策が必要になります。Seeklではジャーナルとその領域の持つ様々なデータを可視化・分析し、JIFに影響を与える複数の要因を探索することで、編集・査読プロセス上に必要な改善点を明らかにします。

お問い合わせ

03-3918-5005 (直通) info@seekl.jp

JIFについてお悩みのことがあれば、まずは気軽ににご相談ください▶

